

日本医療検査科学会第 57 回大会 終了のご挨拶
変革の好機に挑戦しよう！（Challenge the chance for change!）

この度、日本医療検査科学会第 57 回大会につき 2025（令和 7）年 10 月 3 日（金）～5 日（日）にパシフィコ横浜 会議センターで開催させていただき、無事終了することができました。2,997 名の方にご参加いただき、本学会大会では最多人数と聞いております。また、JACLaS EXPO 2025 にも実来場者数 8,221 名（のべ来場者 11,241 名）のご参加をいただきました。誠にありがとうございました。

教育講演 1 では高橋聡理事長、教育講演 2 では清宮正徳副理事長、原田典明先生に御尽力いただき、また 4 つの各シンポジウムでは野村文夫先生、梅村啓史先生、高橋聡理事長、飯沼由嗣先生、村田正太先生、矢富裕先生に企画していただき誠にありがとうございました。そして、本大会の目玉として招聘致しました金沢大学融合研究域融合科学系の金間大介先生には、「素直でまじめで優秀」でも「仕事はがんばらない」：いい子症候群の若者たちの働きがいと働きやすさを特別講演としてご講演いただきました。立ち見者が出るくらいの盛況で大変にご好評をいただきました。

朝 8 時からのモーニングセミナーでは連日会場が満員になるくらいの盛況で、23 枠におよぶランチョンセミナー、機器・試薬セミナー、委員会主催の技術セミナー、サテライトセミナーでも各企業の方々に協賛などご協力いただき心から感謝申し上げます。国際交流シンポジウムや一部の一般演題では外国から参加され活発な討議が行われました。新しい試みとしては日本遺伝子診療学会との共催で「出張！臨床遺伝情報検索講習会」が行われました。

一方、多施設、多職種から座長を選んだことから、一部の参加者の方に不快な思いをさせてしまったかもしれません。誠に申し訳ありませんでした。

「変革の好機に挑戦しよう！（Challenge the chance for change!）」は好い（よい）機器にもひっかけていました。JACLaS さまとの合同交流会では、本当に多くの方にご参加していただき、私も楽しみながら過ごしました。関係者の方々に感謝申し上げます。



まだまだ、私自身、お祭りのあとのような余韻が残っている状態です。閉会式の際に、床に置いた大会長のリボンは清宮正徳次期大会長に引き継がれます。

最後になりますが、演題登録をいただいた学会員の方、ご協力いただいた方、事務局の石川真弓さま、佐久間良太さま、運営事務局の株式会社サンプラネットの皆様、学術広告社の田原完次さま、お一人おひとりに感謝申し上げたい気持ちです。誠に充実した 3 日間でした。言葉に表せないくらいの気持ちをもって深謝申し上げます。

令和 7 年 10 月 9 日

日本医療検査科学会第 57 回大会
大会長 中山 智祥
日本大学医学部病態病理学系臨床検査医学分野教授